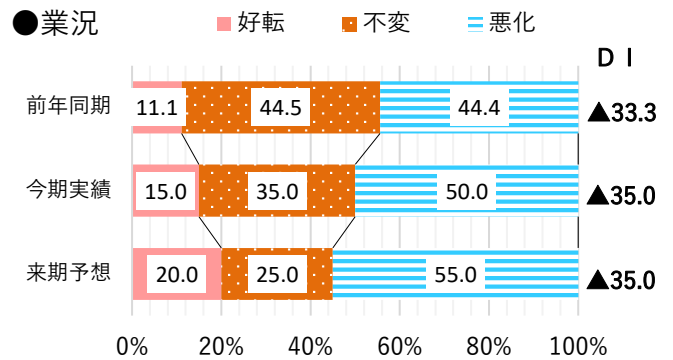


卸 売 業

業況、売上、採算

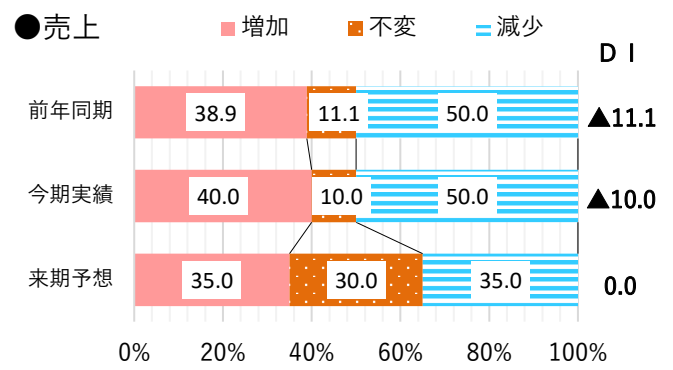
今期(2022.1~3)の業況判断DIは▲35.0で、前年同期(2021.1~3)と比べ1.7ポイント上昇しました。

来期(2022.4~6)は、業況の横ばいを予想しています。



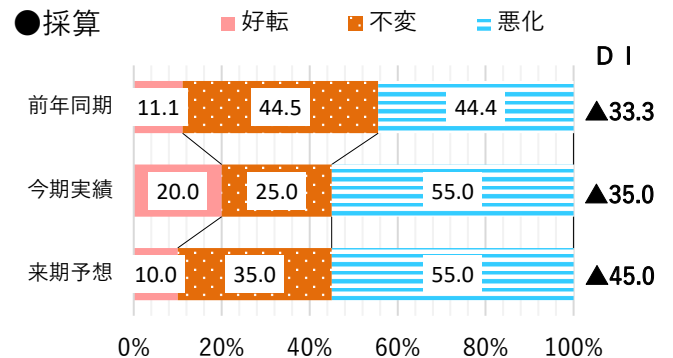
今期の売上DIは▲10.0で、前年同期と比べ1.1ポイント上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

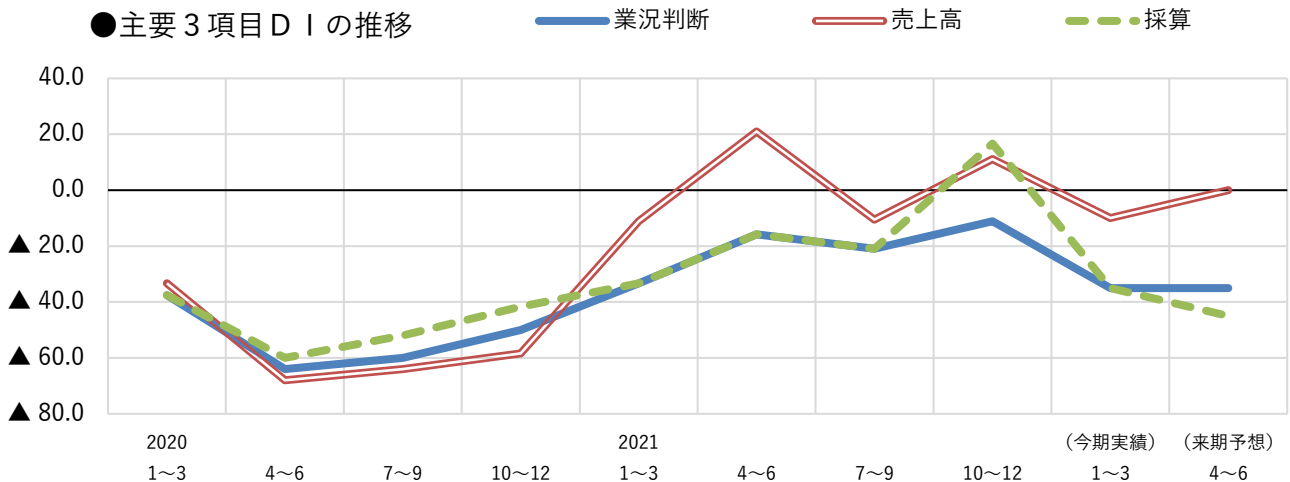


今期の採算DIは▲35.0で、前年同期と比べ1.7ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



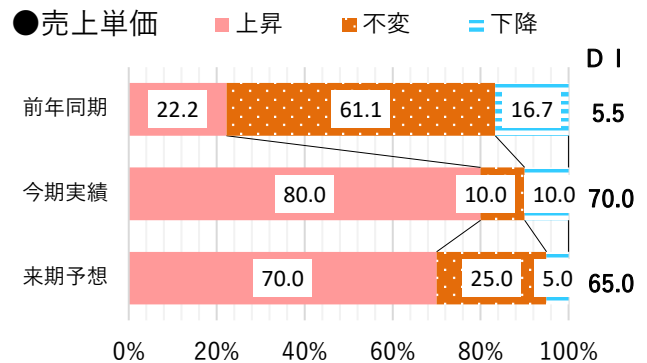
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

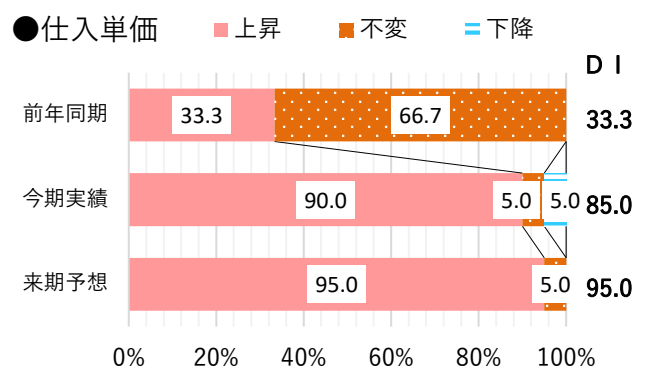
今期の売上単価DIは70.0で、前年同期と比べ64.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の仕入単価DIは85.0で、前年同期と比べ51.7ポイントと大幅に上昇しました。

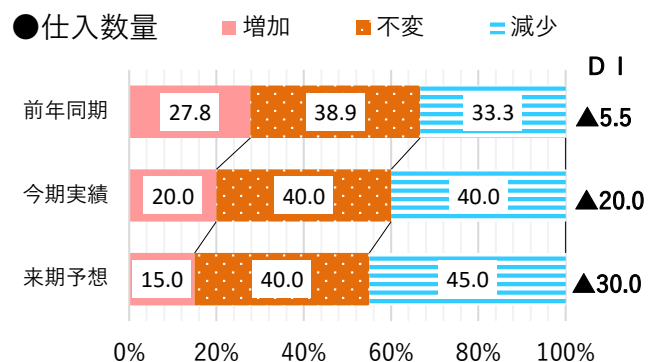
来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

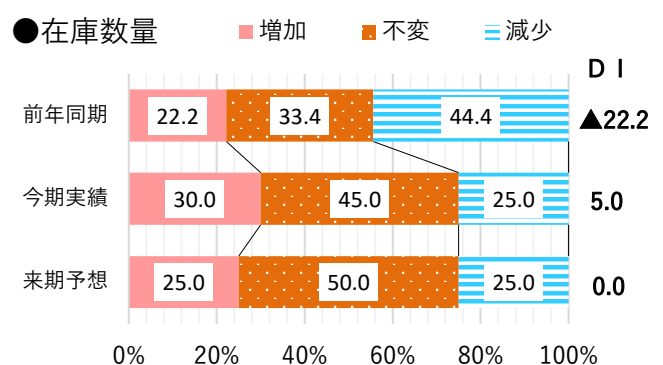
今期の仕入数量DIは▲20.0で、前年同期と比べ14.5ポイント低下しました。

来期は、仕入数量の減少傾向が強まると予想しています。



今期の在庫数量DIは5.0で、前年同期と比べ27.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

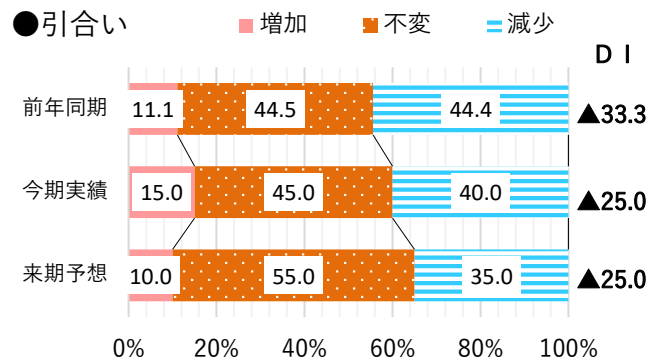
来期は、在庫数量に大きな変化はないと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲25.0で、前年同期と比べ8.3ポイント上昇しました。

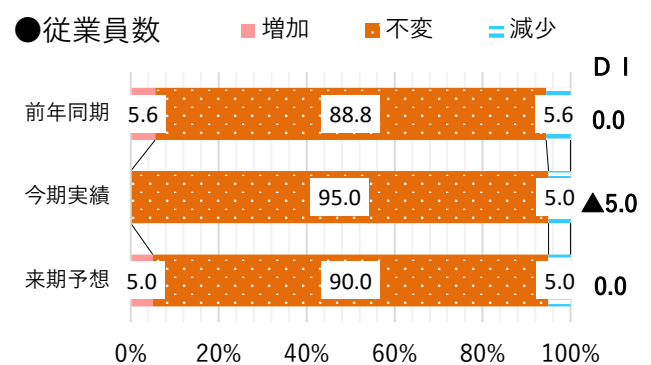
来期は、引合いの横ばいを予想しています。



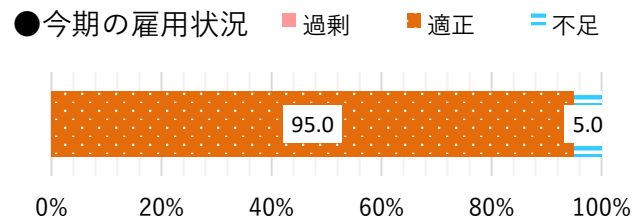
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.0で、前年同期と比べ5.0ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は95.0%、不足していると回答した企業の割合は5.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の90.0%を占めています。

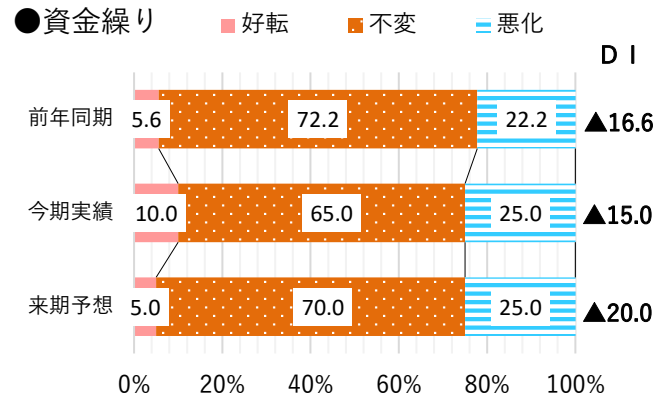
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	18
	不足	1
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	0

資金繰り、設備投資

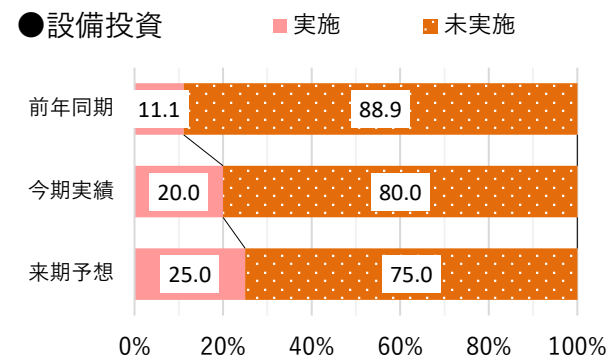
今期の資金繰りDIは▲15.0で、前年同期と比べ1.6ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



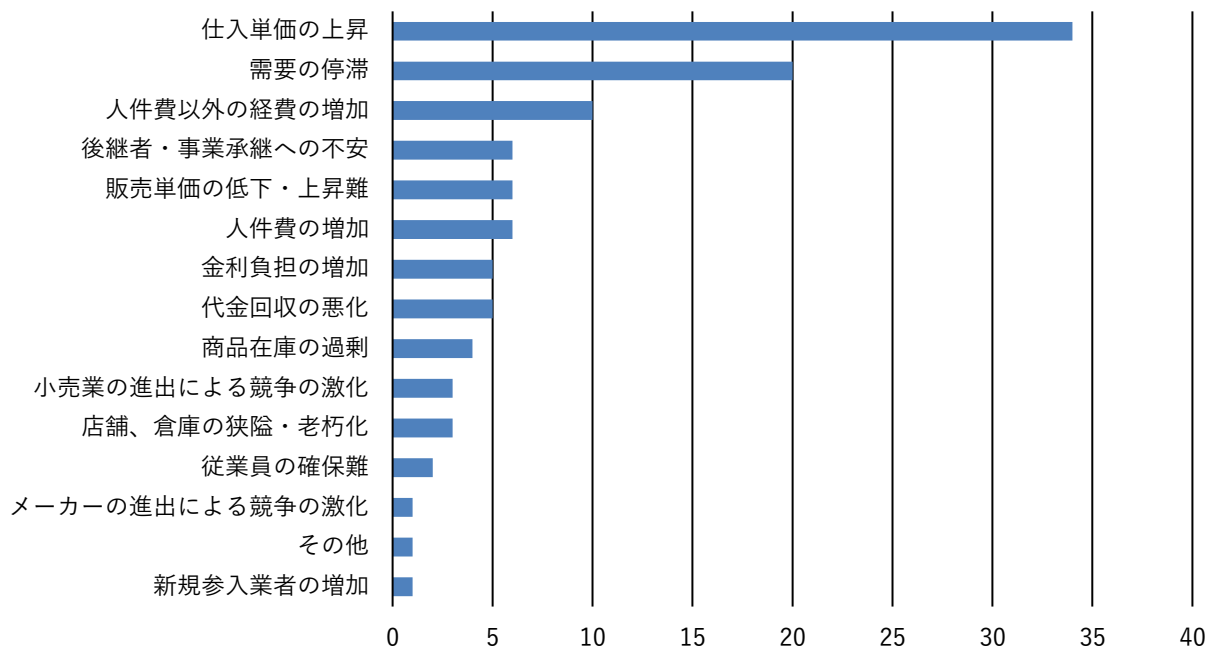
設備投資を実施した企業の割合は20.0%で、前年同期と比べ8.9%増加しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「店舗」、「OA機器」（同位）でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は25.0%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 原油価格が上昇傾向にあるため、仕入価格が上昇した。売上も増加したが、仕入価格の上昇分全てを転嫁できている訳ではないため、利益は減少した。(石油卸売)
- 新幹線工事が遅れ、売上の伸び悩みを危惧したが、高規格道路の工事で売上は増加した。(建築材料卸売)
- 2月の降雪量が少なかったため、冬期用品の売上は伸び悩んだが、ディーゼルエンジン用の製品が品不足のため、価格が上昇し、売上につながった。自動車部品の原材料が不足しており、新車の製造が遅れている代わりに、中古車市場が伸長しているようだ。(自動車部品卸売)
- 冬は例年需要が落ち込むことを考慮しても、販売量の減少傾向を強く感じる。(鉱物・金属材料卸売)
- 水産系の機械器具を扱っているので、赤潮等の影響で売上が減少した。(産業用機械器具卸売)
- 半導体不足により商品を納入できず、売上が減少した。(事務用品卸売)
- 売上の減少や商品仕入単価の上昇により、業況は悪化した。(食料・飲料卸売)
- 仕入価格が相次いで値上げしたが、販売価格に転嫁できたため、売上は増加した。更なる値上げの動きもあるが、今後は転嫁できるか不安だ。(塗料販売)

[来期の業況について]

- 原油価格の上昇が続くが、価格転嫁が不十分な状況も続くため、利益の増加は期待できない。(石油卸売)
- 新幹線のトンネル工事が予定されているが、資材や原材料の大幅な不足が予想される。(建築材料卸売)
- 仕入単価の上昇分を販売価格に転嫁する予定だが、販売数量は減少するだろう。(鉱物・金属材料卸売)
- 仕入単価の上昇により、採算が悪化すると思われる。(食料・飲料卸売)